

令和5年度全建賞 推 薦 調 書
インフラ整備の事業又は施策の部(インフラの部)

ふ り が な	おおくまちょうりつまなびやゆめのもり
1. 事業(施策)の名称	大熊町立「学び舎ゆめの森」建築事業
2. 事業(施策)実施期間	令和2年 10月 14日 ~ 令和5年 6月 30日
3. 事業費(工事費)	5,634 百万円
4. キーワード	認定こども園と義務教育学校の一体化、アナログ/デジタル環境の融合、教育を柱とした地域活性化、次世代型エコスクール
5. 事業概要	東日本大震災による原子力発電所事故で全町避難を余儀なくされた大熊町における復興事業の柱の1つとして位置づけられた、認定こども園と義務教育学校を一体化した、0~15歳までの子供たちが混じり合って遊び、学ぶ公立学校の整備事業

6. アピールする事業又は施策の「手段」と「秀でた成果」		
ハード or ソフトの分類 :該当する方に○印	① ハード面 に秀でた事業	② ソフト面 に秀でた取組
アピールする 1)「手段」	(C)教育方針と一体化したデザイン コンセプトの採用 (b)デジタル、アナログ環境が融合した教育環境の整備 (C)復興のシンボルとなる外観デザインの採用	() () () ()
アピールする 2)「秀でた成果」	(a)魅力ある教育を通した移住者数の向上 (f)住民参加イベントを通した地域活性化 (h)ZEB Ready 相当の省エネ対策の実現	() () () ()

7. 特にアピールしたい点
<p>【三角形の構造フレームの組み合わせで生まれる屋内外に広がる学習環境】 三角形の鉄骨フレームを組み合わせることで、地震に強く、なおかつ変化に富んだどこにもない自由な形状の建物により、屋内外に繋がるのびのびとした学習環境を実現した。</p> <p>【図書ひろばを中心とした子供たち自らが主体的に楽しんで学べる次世代の公教育環境の実現】 建物の中心に開放的な図書ひろばを設け、こども園、小学校、中学校、特別教室、職員室、体育館を放射状に配置し曖昧に繋いでいくことで、子供たちの活動が混じり合い、多様性に富む新しい公教育環境を実現した。</p> <p>【0歳から100歳までの学び舎を目指した地域活性化への寄与】 地域にとっての交流施設としても積極的に開放し、住民の方たちとの協同活動を通して、地域活性化に寄与した。</p> <p>【復興のシンボルとなる特徴的な外観デザイン】 3層に積み上げた特徴的な外観は常磐道に対しても開かれた配置とすることで、大熊町の復興のシンボルとなった。</p>

8. 事業を代表する写真及びキャプション



南西からの俯瞰。東に常磐道が通る



建物中央にある開放的な図書ひろば

9. 事業内容・添付資料

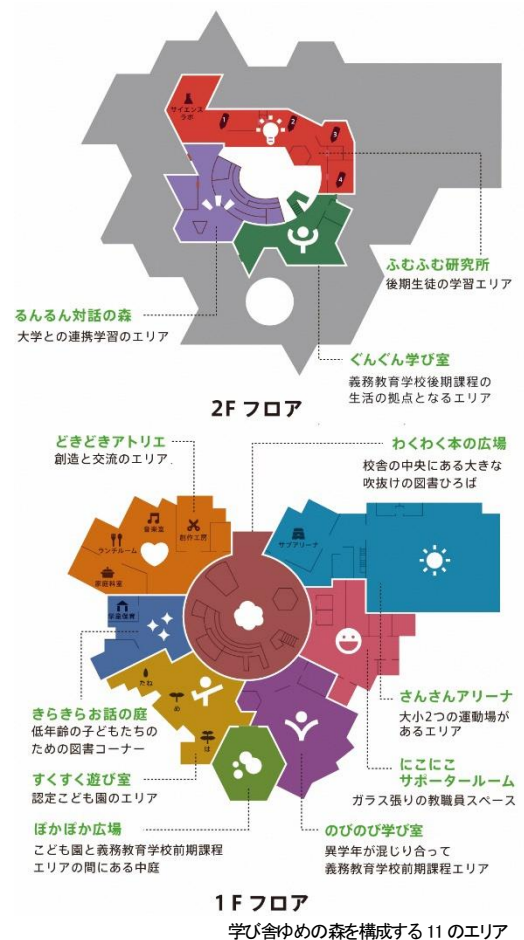
【事業概要】

2011年の東日本大震災による原子力発電所事故によって全町避難となっていた大熊町で、避難解除後の町での学校再開に合わせて整備された認定こども園と義務教育学校を一体化した、0歳から15歳までの子供たちが共に混じって遊び、学ぶ公立学校である。さらに地域にとっての交流施設としても積極的に開放することで地域住民とも混じり合い、地域活性化、移住定住促進の起爆剤となる「0歳から100歳までの学び舎」の実現を目指して整備された。

整備にあたっては、一斉授業や画一的なカリキュラムに基づいたこれまでの公教育の仕組みを一から見直し、「混在」と「多様性」をキーワードに掲げる教育方針と建築が一体化した次世代の教育環境作りを目指した。建物全体は三角形グリッドの構造フレームを内部の機能や敷地の特性に合わせて自由に組み合わせて構成したスケルトンと、家具、建具、遊具を融合したインフィルを重ね合わせて構成し、中央にある開放的な図書ひろばを中心として、11の特徴的なエリアが繋がり、混ざりあう構成としている。アナログ、デジタルの2つの環境を融合させることで、教室を中心とした小さな領域に縛られることなく、全ての場所を教室として使うことができ、個別学習から異年齢が混じり合う集団活動まで、子供たち自らが主体となって様々な取り込みに挑戦している。

【図書ひろばを中心とした新しい公教育環境の実現】

建物中央にある図書ひろばと周囲のエリアを繋ぐ「わくわく本の広場」の回廊には5万冊の書籍の配架が可能となっており、震災前から「本が生まれる町」をスローガンに、読書を軸にした教育活動を推進してきた大熊町を象徴する空間となっている。特に図書ひろばを取り囲むように配置された「スリバチ」と「さざえ堂」の愛称で親しまれる2つのCLT製の大型家具は、それ自体が本棚であると同時に上下階を繋ぐ動線として、また異年齢の子供たちが遊ぶ遊具として様々な機能を担っている。異年齢の子供たちが協同して行われる演劇教育の発表の舞台としても図書ひろばが活用され、スリバチは客席としても機能し多くの住民が訪れた。また「さざえ堂」は文字通り会津さざえ堂をモチーフとしたデザインを採用しており、避難先であった会津若松市との繋がりを伝えるシンボルともなっている。また、従来の十進分類法による排架計画を見直し、例えば、創作工房の近くには美術の本、アリーナの近くにはスポーツ、体作りの本など、隣接する機能に合わせたこの学校独自のテーマ排架が採用されており、子供たちの探求心を刺激する工夫がなされている。



図書ひろば。奥に大型家具スリバチ、手前右側にさざえ堂を見る

9. 事業内容・添付資料

【地域と共に成長する0歳から100歳までの学び舎】

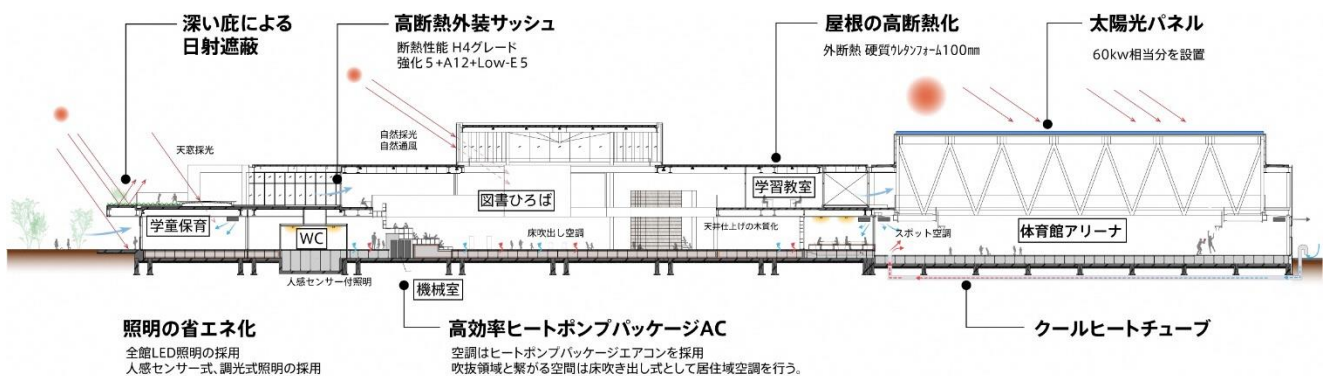
公営住宅に面する敷地の北側は、道路に平行して敷地の一部を歩道として整備し、敷地境界線にはフェンスを設けず、周辺環境の景観面、安全面での向上に寄与している。また住宅地に沿うように、地域開放が可能な創作工房、音楽室、ランチルームを集めた「どきどきアトリエ」エリアや、アリーナ、サブアリーナからなる「さんさんアリーナ」エリアを設け、内部の活動が町に対して開かれ、地域一帯の賑わい創出に貢献している。そのほか、地域住民や、避難先で暮らす住民、移住者など、居住形態によらず大熊町に関わる全ての人々が集える運動会や演劇公演など、魅力ある教育活動を通じた地域活性化が積極的に行われている。学び舎ゆめの森の教育活動をきっかけに、帰還や他の地域からの移住を決心する家庭も現れるなど、移住者数の向上にも繋がっている。



左:地域のプロムナードとして開放した敷地北側(住宅地側)の外構デザイン 右上:住民参加で開催した運動会の様子 右下:図書ひろばを活用した演劇公演の様子

【ZEB Ready 相当の省エネ対策を実現したエコスクール】

深い庇による日射遮蔽や、高断熱外装サッシ、屋根の高断熱化など、建物の特性を最大限に生かした熱負荷の低減を徹底するとともに、高効率な空調システムを採用することで、ZEB Ready 相当の省エネルギー対策を実現した。(BEI=0.49)また、認定こども園と小学校エリアの間にある中庭部分には上階の屋上広場から滝のように水を流す開放樋を設け、アリーナ、サブアリーナの換気システムには地中熱を利用したクールヒートチューブを採用するなど、性能向上だけでなく、子供たちが身近な環境に対する興味を持てる教育面での様々な工夫も行っている。



省エネ対策を示す断面図

- ① 規模構造:[校舎棟]地上2階 鉄骨造、[屋外倉庫、付帯施設]RC造
- ② 建築面積:7,732.78 m²
- ③ 延床面積:7,917.60 m²